

目次

「今月の海の生き物」カヤモノリ	1
1. 「海の生き物を守る会」の活動について	2
2. 「クジラ切手コレクション」 (37・38) 立川賢一	8
3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース	10
4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報	12
5. 「きらめく動物たちの命と海 久保田信の白浜だより」 (133)	16
6. 「有明海と三陸の水辺から」 (68) 田中 克	17
7. 「ジュラシック・ビーチを次の世代へ残したい」 (3) 向井 宏	19
8. 事務局便り	20
9. 編集後記	21

1. 「海の生き物を守る会」の活動について

【活動予定】

◆海の生き物を守るフォーラム2018 in 東京

以下の通り、海の生き物を守るフォーラム2018を行います。ぜひご参加いただき、各地の海の生き物を守る取り組みを聞き、今後の日本各地の取り組みにどう生かしていくか、考えていただきたいと思います。フォーラムのあとには、海の生き物を守る会の総会と懇親会も予定されています。

海の生き物を守るフォーラム2018

「海の自然をどう守るか

～取り組みと成果～」

日時：2018年2月17日(土)

13:00~16:00 (開場 12:30)

会場：[東京都中央区環境情報センター](#)

(中央区京橋 3-1-1

東京スクエアガーデン 6階)

海の生き物を守るフォーラム2018

海の自然をどう守るか ～取り組みと成果～

日時：2018年2月17日(土)
開場：12時30分より
場所：東京都中央区
環境情報センター

主催：海の生き物を守る会
日本自然保護協会
ラムサールネットワーク日本
連絡先：075-741-6281；03-

<プログラム>
◆「葛西三枚洲」 飯田陳也(日本野鳥の会)
◆「嘉徳海岸」 安部真理子・志村智子(日本自然保護協会)
◆「上関海域」 向井 宏(海の生き物を守る会)
◆「江奈湾干潟」 横山耕作(NPO法人OWS)
◆「辺野古・大浦湾」 安部真理子(日本自然保護協会)



共催：海の生き物を守る会、日本自然保護協会、ラムサールネットワーク日本

プログラム

- 13:00~13:05 開会挨拶および趣旨説明 向井 宏（海の生き物を守る会）
- 13:05~13:40 「葛西三枚洲 ラムサール条約登録を目指して」 飯田陳也（日本野鳥の会東京幹事）
- 13:40~14:15 「嘉徳海岸 奄美の砂浜の生物多様性と護岸計画の現状」
- 14:15~14:30 休憩 ↑安部真理子・志村智子（日本自然保護協会）
- 14:50~15:25 「上関海域 まるごと博物館の活動を通して奇跡の海を守る」 向井宏（海の生き物を守る会）
- 15:25~15:40 「江奈湾干潟 NPO の取り組み」 横山耕作（NPO 法人 OWS）
- 15:40~15:55 「辺野古・大浦湾 生物多様性豊かな辺野古の海の現状」
- 15:55~16:00 閉会挨拶 志村智子（日本自然保護協会） ↑安部真理子（日本自然保護協会）
- 16:00~ 同じ会場で、「海の生き物を守る会」総会を行います。

◆海の生き物を守る会 2018 年総会

海の生き物を守る会の総会です。会員はぜひご参加ください。遠方などの理由で参加できない会員は、委任状の提出をお願いします。終了後、近くのレストランで懇親会を行います。こちらにも多くの会員に参加していただけますようお願いします。

日時：2018年2月17日（土）16:00~17:00

会場：[東京都中央区環境情報センター](#)

その他、以下のような予定で観察会などを計画しています。

◆吉野川河口干潟観察会

日時：2018年4月29日（日）10:00~15:00

※雨天中止

場所：吉野川河口

参加費：無料

用意：砂浜歩きのできる服装、濡れても良い靴、弁当、メモ、筆記具、カメラほか

共催：とくしま自然観察の会



◆砂浜海岸生物調査研修会・観察会 in 表浜

日本の海岸においては、ますます貴重になる砂浜、美しい芽吹きの際節に表浜海岸の長大な砂浜海岸を体験しませんか？子どもから大人までの体験ひろば：表浜まるごと博物館でセミナー終了後、現地で生物調査、同定を行います。

日時：2018年5月20日（日）10:00~15:00 ※雨天中止（少雨なら実施）

場所：愛知県豊橋市 表浜 /会場・集合場所：[表浜まるごと博物館](#)

参加費：無料

用意：砂浜歩きのできる服装、靴、弁当、メモ、筆記具、カメラほか

共催：NPO「表浜ネットワーク」

◆海岸生物観察会 in 和賀江島

日時：2018年6月16日(土) 10:00～14:30 ※雨天中止（少雨なら実施）

場所：神奈川県材木座海岸和賀江島

集合場所：材木座海岸東北端の和賀江島前海岸

参加費：無料

用意：水に入れる服装、濡れても良い靴、弁当、メモ、筆記具、カメラほか

◆砂浜の生き物観察会 in 嘉徳海岸（奄美大島）

日時：2018年5～6月頃（未定）

場所：嘉徳海岸（鹿児島県大島郡瀬戸内町嘉徳）

日本自然保護協会との共催を予定

◆アカテガニの放仔観察会

日時：2018年7月（予定）

場所：山口県上関町長島田ノ浦海岸

上関の自然を守る会との共催を予定

◆海岸生物観察会 in 江ノ島

日時：2018年10月

場所：神奈川県江ノ島の砂浜

会場・集合場所：未定





さしあげます！

下記書籍・CD・DVDを希望者に差し上げます（送料はご負担ください）。

★希望者は、向井 宏 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp までお知らせください。なお同日に複数の希望が寄せられた場合は海の生き物を守る会会員を優先とします。ご了解ください。

- ◎ 「砂浜海岸生物調査 中間報告書（2008～2014）」 海の生き物を守る会（2015）
- ◎ 「砂浜海岸生物調査 第2次中間報告書 日本の海浜植物」 海の生き物を守る会（2017）
- ◎ 第7回自然環境保全基礎調査「浅海域生態系調査（干潟調査）報告書」2007年環境省自然環境局
生物多様性センター p.235 出現種リスト付き CD版 残り9部
- ◎ Diving team Snack Snufkin 「Exploring the Nature of Oura Bay and its surrounding area」
2010年 日英両語による大浦湾の生物のパンフレット
- ◎ International Symposium on Integrated Coastal Management for Marine Biodiversity in Asia.
2010/1/14-15 Kyoto DVD版
- ◎ GREEN AGE 2015-4 特集・これからの海岸林造林を考える 2015年 日本緑化センター 1部
- ◎ 「オホーツク・アムール オホーツク海の環境保全を目指して」 2009年 国土交通省 北海道開発局

砂浜フィールド図鑑 好評販売中！

(1) 『日本のハマトビムシ類』

海の生き物を守る会では、砂浜海岸生物調査を一般の人々に呼びかけています。そこで、「砂浜フィールド図鑑」を発行しました。シリーズ1冊目は、どの浜辺にも必ず見かけるハマトビムシ類の図鑑です。

A5判 14 ページ。1冊 100 円で頒布しています。会員には1冊に限り無料でお送りします(送料のみご負担ください)。



(2) 『北海道の海浜植物』



砂浜フィールド図鑑シリーズの2冊目として、「北海道の海浜植物」を刊行しました。

A5判 56 ページ。1冊 200 円で頒布しています。

会員には1冊に限り無料でお送りします(送料のみご負担ください)。

★以上、ご希望の方は当コーナー最後の申し込み方法をご覧ください。

●辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会の活動について

大浦湾・辺野古沖の多様な海の生物とジュゴンを守ろう！

海の生き物を守る会は、生物多様性を誇る沖縄県名護市の大浦湾・辺野古沖の埋立に反対して、「辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会」に参加しています。

本土からの辺野古土砂採取計画撤回を！ 第三次署名提出にむけて

安倍政権は、沖縄県内からの土砂だけでは埋立ができないことから、西日本各地の14カ所以上の山を削り、海砂を採取し、合計21,000,000 m³の土砂で辺野古の海の埋立を強行しようとしています。

協議会ではこの埋立用に故郷の土砂を送らないよう要請する署名活動を行い、これまで10万筆を超える署名が集められました。しかしながら、沖縄の民意を無視して辺野古の埋め立て工事が強行されています。辺野古現地での反対運動とともに、私たちの本土から埋め立て用の土砂を送らせない運動も、今後重要になってきます。土砂搬出反対の署名も現在、新しい用紙でさらに多くの署名を集めています。署名活動にご協力をお願いいたします。署名用紙は、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://www.setonaikai-japan.net/00kansetonaikaikaigi/901henoko/p01065.pdf>

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会に参加している「『辺野古に土砂を送らせない！』山口のこえ」が沖縄に出かけて辺野古の埋立に抗議の声を上げてきました。以下は、その報告です。

「辺野古に土砂を送らせない！」山口のこえは、1月22日～25日、10人（県内8人、北九州1人、岡山県1人）で辺野古支援行動に参加してきました。23日午前には抗議船平和丸にも乗り、埋立のK-1現場（埋め立ての最南端約200mを予定）では、投入される採石によって壊されていく海の悲しみの声を聞きました。カヌー隊による抗議も応援しました。

23日午後以降は、ゲート前座り込みに参加です。工事ゲートからの採石及び生コン搬入は、毎日2～3回、各回70台から100台のダンプ・生コン車搬入されていきます。県民及び支援者は搬入の都度、絶えることなく非暴力の座り込みで抵抗し、抗議を繰り返します。そのたびに機動隊が基地内から出てきて（基地内からですよ！）、抗議する我々を排除します。このことに強い怒りを感じるとともに、沖縄の皆さんの不屈の闘い（ゲート前座り込み1300日）に強く打たれました。

また、名護市長選は告示前なのに、もう「終盤戦」。稲嶺すすむさんの三選とともに、同時に行われる名護市議補選に立候補する安次富さん（へり基地反対協共同代表）の勝利を勝ち取る重要性を、肌で感じてきました。23日夜は名護市内屋内運動場に3850人を集めて、稲嶺すすむさんの総決起集会が行われたので、これに参加してきました。

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会第5回総会

2018年5月26日（土）～27日（日）沖縄県で開催

第5回総会は、土砂全協と沖縄県議会との連携を図るため、沖縄県で開催します。現在、辺野古基地建設の是非を巡る名護市長選挙が行われています。11月には沖縄県知事選挙もあります。辺野古に基地を作らせない信念を表名している稲嶺市長と翁長県知事を三度選び、民意を明らかにするためにも、総会への参加を呼びかけます。

会場：沖縄市民会館中ホール（沖縄県沖縄市八重島1丁目1-1）

★参加希望者は、事務局までお知らせください。

スケジュール

2018年5月26日（土） 午後はフィールドワーク（希望者のみ、読谷村、嘉手納基地周辺、南風原の陸軍病院壕跡、泡瀬干潟など検討中）、夜は懇親会

翌27日（日） 午前は総会。午後は学習交流会、北上田さんのお話と各地の報告（たっぷり）海勢頭豊さんのコンサートも予定

辺野古の美ら海とそこに棲むサンゴやジュゴンなどの生きものを守りましょう。

活動を広めるためにパンフレットを発行しています。

1部500円をカンパとしていただいています。故郷の山を守り、辺野古の海を守る手立ての一つとして、この活動に賛同する意味からも、ぜひご購入をお願いします。



★当コーナーの冊子類をご希望の方は、冊子名、部数、送り先を向井 宏 hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp までお知らせください。

冊子代金+送料のお振り込み先：ゆうちょ銀行 九二八店
普通 0284839（記号番号 19230-2848391）ムカイヒロシ

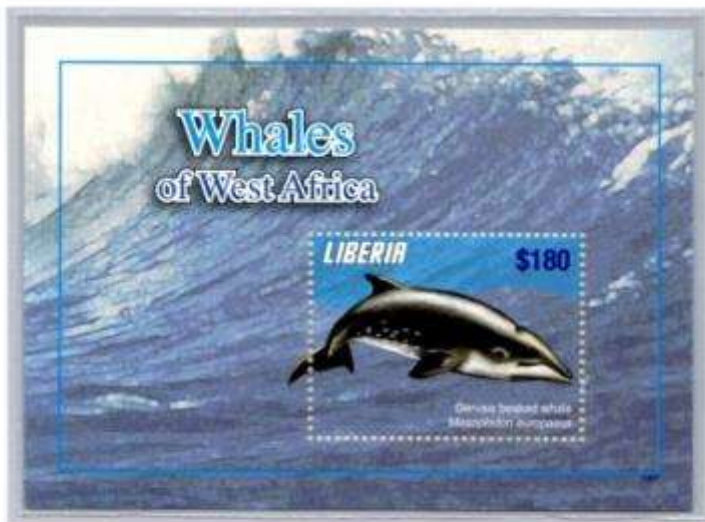
2. クジラ切手コレクション (35)(36) 立川賢一

動物門哺乳綱鯨偶蹄目ハクジラ亜目アカボウクジラ科

ヒガシアメリカオオギハクジラ

Gervais' Beaked Whale (Mesoplodon europaeus)

ヒガシアメリカオオギハクジラは、北大西洋南西部を中心とした海域に分布しています。調査・研究がほとんど無く、生態などの情報は不明です。座礁標本の分析から、成獣の体長は4.5~5.2m、体重は1~2tで、新生獣の体長は1.6~2.2m、体重は50kgです。



ヨーロッパオオギハクジラ

Sowerby's Beaked Whale (Mesoplodon bidens)

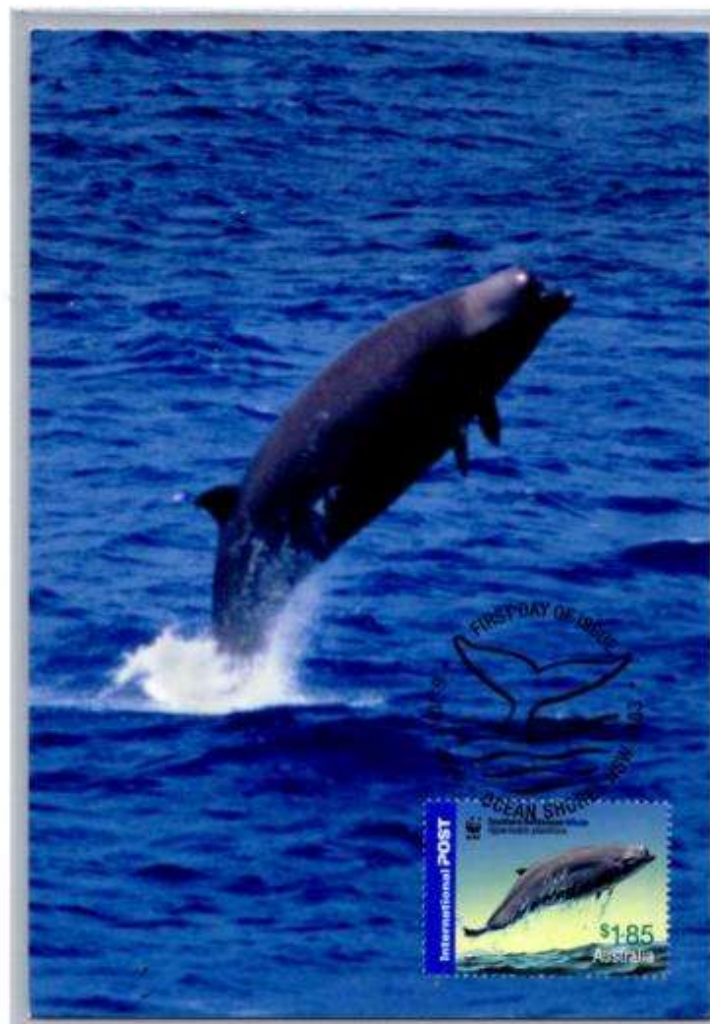
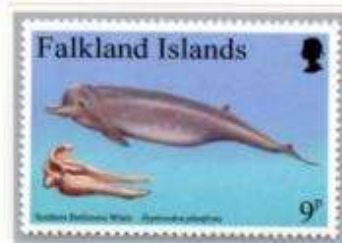
ヨーロッパオオギハクジラは、アカボウクジラ類の中で最初に発見された鯨種です。北大西洋東部および西部の温帯、亜北極域の海域に分布しています。座礁標本から、成獣の体長は4~5m、体重は1~1.3tで、新生獣の体長は2.4~2.7m、体重は170kgです。



ミナミトックリクジラ

Southern Bottlenose Whale (*Hyperoodon planifrons*)

ミナミトックリクジラは、南極から北方向へ南緯30° 辺りの南半球の海域に分布しています。南極の氷縁から100km以内では頻繁に見ることができるそうです。しかし、調査の実績が少ないので、生態に関する情報は不明で、個体数も不明です。成獣の体長は6~7.5m、体重は6~8tで、新生獣の体長は2.9~3.5m、体重は不明です。



3. 海の生き物とその生息環境に関するニュース

編注：このニュース欄の情報源はマスコミ・団体の会報・その他多岐にわたります。海の生き物に関する最新情報を共有するため、事実と思われる内容を紹介し、それについて必要と思われる範囲で論評もしています。文責者名を記事毎に明記しますが、独自の裏付け調査をしているわけではありません。その点は、ご承知おきください。読者からの投稿も大歓迎です。

10

【国際】

●カンブリア紀のゴカイの化石を発見 軟体部もはっきり カナダ

5億年以上前の古生代カンブリア紀には、バージェス頁岩と呼ばれる地層から多数の奇妙な形の動植物を含む多細胞生物の群集が化石として発見されている。最近、カナダのブリティッシュコロンビア州クートニー国立公園で、この時代の多毛類（ゴカイの仲間）と思われる「衝撃的に良好な状態」の化石が発見された。このゴカイは、体長2cmくらいの小さな動物だが、体の両側には細い剛毛が多数生えているのも確認されている。さらに化石としては驚くことに、神経や血管らしき管状の組織のようなものの跡も見つかっている。発見したカナダのトロント大学大学院生のカルマ・ナングル氏は、このゴカイの新種に *Kootenayscolex barbarensis* と名付けて2018年1月の学術雑誌「カレントバイオロジー」に報告した。この化石からは、頭部から長い「副感触手」が1対あり、その間に「感触手」があることがはっきり分かる。これまでも、古代のゴカイ類の化石は多く見つかっていたが、軟体部までもはっきりその跡が確認できる化石は、初めての発見である。現在のゴカイ類の体型と近く、ゴカイ類の進化の初期から、頭部と体節が分けられていたということが初めて分かったとして、ナングル氏は無脊椎動物の進化の研究に貢献したいと述べている。ちなみに2015年から7月1日が「国際ゴカイの日」に制定されている。（文責：向井 宏）



【全国】

●数十年で最悪のタンカー事故 日本海への影響が心配

1月6日の夜、イランのタンカー「SANCHI」号が、上海の沖300km付近で香港の貨物船と衝突し、爆発炎上を繰り返しながら漂流、日本の排他的経済水域（EEZ）内で沈没した。積み荷の超軽質原油（コンデンセート）11万トン余が流出しているとみられている。乗組員32人は全員死亡したという。ロイター通信によると、1ヶ月以内に日本の沿岸に原油が到達する可能性があり、数十年間で最悪のタンカー事故だと報じた。第10管区海上保安本部は、「コンデンセートは揮発性が高いため、ただちに重大な影響がある状況ではない」としている。国際的な環境保護団体のグリーンピースは声明を発表し、コンデンセートのこの規模の流出は過去に例がないとして、影響は予測不可能とし、監視体制を強めるよう警告を発している。（文責：向井 宏）

【関東】

●密漁が増加 「少しなら……」が種の絶滅を導く

関東の沿岸で、サザエなどの密漁で横須賀海上保安部に書類送検される例が最近急増している。かつての漁業者による密漁が減少したのに対し、近年は個人的に食べるための少量の密漁が増えているらしい。2015年までは書類送検される数は年間18～130件であったが、2016年には215件と急増、2017年には299件に上った。密漁の対象はサザエ（押収2196個）、海藻類、タコ、アワビの順に多い。ほとんどが逮捕には至っておらず、罰金または説諭で不起訴がほとんどだという。

大部分の人は少しくらいなら良いだろうと思ひ、密漁する。しかし、少しずつでもそうする人が増えれば、海の生き物の減少や地域的な絶滅に繋がる。本来ならこれらの生物資源は漁業者の所有物ではなく、公共物なので、すべての人が自由に獲っても良さそうであるが、自由に獲ればいわゆる「コモンズの悲劇」が起こる。それを防ぐために漁業権が設定されているのだが、かつては夕食のおかずには海に行き海藻や貝類を採って食べていたいわゆる「入り会い」の利用者のことが今は考慮されていない。小規模な密漁が跡を絶たないはそのせいなのかもしれない。海をどのように利用して守っていくかは、漁業者だけでなく、市民も含めて改めて議論していく必要があるのではないだろうか。（文責：向井 宏）

【九州】

●曾根干潟に「ウインドファーム」建設計画 風況調査始まる

福岡県北九州市の瀬戸内側に残る曾根干潟は、多くの渡り鳥の飛来地やカブトガニの生息地としても知られている貴重な干潟であるが、このたび曾根干潟周辺に風力発電を設置する「曾根ウインドファーム」建設の構想が明らかになり、すでに工事関係者によって風況調査が始まっている。この計画を推進してきた北九州市の市議会議員の話によると、「北九州市若松区の響灘に44基、曾根干潟に18基の洋上風力発電機を設置する」という。曾根干潟では2000kw級の風力発電機を干潟への打ち込み方式で設置するようだ。全面的な埋立を伴わないが、工事のために建設用の仮設道路を作ったりすることによる干潟への悪影響が出る可能性は高い。市議員は日頃から「（これまでの開発により）干潟に流れ込む潮流が弱まり、干潟による環境浄化作用が能力を超えているため、（埋め立て）弱くなった潮流に合わせた（小さな）規模の干潟面積にする」というようなとんでもない理由で埋立を奨励しており、今回も「干潟環境が悪化して、すでに死潟になっている。再生のための資金を自前で調達するために」この風力発電計画を持ち出して業者をたき付けたとされる。

曾根干潟を守る市民団体では、曾根ウインドファーム計画は、干潟の環境をさらに悪化させるかもしれないと反対しており、1月24日には市民団体の意見交換会を持ち、今後の運動の進め方などについて議論した。

（文責：向井 宏）

●嘉徳海岸にコンクリート護岸建設を決める

鹿児島県奄美大島の嘉徳海岸で、台風の高波から砂浜の侵食を防止するとして鹿児島県大島支庁瀬戸内事務所が計画していたコンクリート護岸の建設について、市民や自然保護団体などから反対意見が出されたため、県は有識者による検討委員会を立ち上げ再検討することとした。今年度2回検討委員会を開催し、1月27日に3回目を行い、200m強の海岸に高さ6.5m、長さ180mのコンクリート護岸を建設し、景観に配慮するために砂をかぶせて見えないようにするという案を委員の採決で決めた。嘉徳海岸は奄美大島でも数少ないリーフで遮蔽されない自然海岸で、かつてはオサガメが産卵に上陸した記録もある。オサガメの産卵が記録された

のは日本では嘉徳海岸が唯一である。サンゴ砂ではない砂浜とそれにつづく浅海部では、貝類の絶滅危惧種が20種も見つかるなど、貴重な砂浜であり、地元へ移転してきたサーファーを含め、自然保護団体や「自然と文化を守る奄美会議」なども反対の意見を上げてきた。昨年12月に行われた日本自然保護協会による生き物調査および沿岸土木の専門家（宇多高明博士）による調査では、砂浜の侵食はこれまで言われてきた台風の高波が原因ではなく、砂浜の南西部に流れ込む嘉徳川が大雨によって砂浜に蛇行し、その結果砂浜が侵食されたことが明らかになった。これまでの検討委員会での議論は、高波から砂浜の侵食をどう防ぐかという視点でしか議論されていなかった。侵食の原因がまったく間違っただけで議論されていたことになる。日本自然保護協会は、その調査結果をまとめて、12月末に鹿児島県にあらためて議論をし直すよう求める書簡を送ったが、第3回の検討委員会では、その意見書については紹介もなく、まったく原因についての議論を行わず、これまでと同じ高波が侵食の原因であるという前提のまま、計画の採決が行われた。このままでは奄美大島の財産ともいえる貴重な自然海岸が失われてしまう。それだけではない。間違っただけの原因を前提とした護岸建設が行われたら、今後も砂浜の侵食は起こる。コンクリート護岸の建設は、砂浜侵食をさらに強める可能性も高い。やがて砂浜が無くなり、コンクリートの壁だけが荒れ果てた海岸に残ることが予想される。宇多博士は、砂の侵食が起こりコンクリート護岸は波によって破壊されるだろうと予想している。

鹿児島県は2018年度秋ごろに工事着手を目指している。まだ工事を止めさせる可能性はないわけではない。この工事は税金のムダ使いであるだけでなく、自然資本を破壊するまるで自殺行為でしかない。なんとか止めさせる方法はないものか。（文責：向井 宏）

【沖縄】

●2月に名護市・沖縄県教委がキャンプ・シュワブ内で文化財調査

米軍の基地建設のための工事が行われている沖縄県名護市辺野古の米軍キャンプ・シュワブの辺野古崎にある「長崎兼久遺物散布地」の陸上部分で、今年2月に名護市教育委員会と沖縄県教育委員会が共同で文化財調査を始めることになった。同地は2016年7月に遺跡と認定された。名護市教育委員会では、同遺跡の海上部分について昨年4月から調査を行って、近世琉球時代や近代の陶器の破片や、船の重りに使う琉球王朝時代の「礎石」が発見されている。陸上部分の調査は遺跡認定以後では初めてになる。調査で文化財が発見された場合は、文化財保護法に基づき、工事事業者の沖縄防衛局と名護市が保存の方法や遺構の取り扱いについて協議することになる。また、調査の期間中は、同遺物散布地の範囲内では工事をする事はできない。名護市教委は調査期間については、防衛局と「調整中」としており、調査の結果次第では工事の進捗に大きい影響を与える可能性もある。（文責：向井 宏）

4. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

【関東】

◆江奈湾干潟観察会（モニタリング）&ゴミ回収活動

以下の日程で自然観察会とゴミ回収活動を実施します。現在、干潟周辺にはたくさんの海洋ゴミが漂着しているほか、県道からの心無い違法投棄ゴミが溜まっています。それらを回収して分別します。モニタリング活動では、干潟に棲む生き物や干潟を利用している生き物を、1年を通して観察・記録し、干潟生態系とそこを利用する生物の関係を把握することが目的です。希少な干潟の自然と生き物たちの観察は、大変楽し

いものです。初めての方も、この機会に是非ご参加ください。

主催：NPO 法人 OWS

日時：2018年2月3日（土）10:15～15:30頃

※時間・内容は変更となる場合があります。

※小雨決行（中止の場合は前日15時までにメール連絡します）

場所：神奈川県三浦市南下浦町 江奈湾

対象：中学生以上の方 ※保護者帯同の小学4年生以上参加可

参加費：無料（昼食、飲み物を持参してください）

※別途、保険料（実費：250円）が必要です。（現地にて徴収）

集合・解散：江奈バス停前 10:15集合

アクセス：京急バス「三浦海岸駅」発「三崎東岡」行き、「江奈」バス停（写真）下車

※三浦海岸駅（2番のりば）から約25分

【参考】バス乗換案内 三浦海岸駅 09:39発 ⇒ 江奈 10:04着（320円）

※車でお越しの方は、赤いマーカー位置に駐車してください。駐車台数に限りあり



◆第9回東京湾海洋環境シンポジウム「東京湾を学ぶ：生態系の現状2017」

1996年に第1回東京湾海洋環境シンポジウムが開催されて20年が経ちました。その後、2000年代に入り、様々な主体の協働による東京湾の再生に向けた取り組みが行われています。2003年に内閣府に設置された東京湾再生推進会議は「東京湾再生のための行動計画」を策定し、現在では2期目の中間評価の時期になっています。こうした中で、東京湾の水質は、近年、徐々に改善されつつあるとされています。しかし、その一方で東京湾の生態系にとって最も深刻な影響を与えている底層の貧酸素化の軽減は思ったように進んでいません。今後さらに東京湾の環境や生態系を保全への気運を高めるには、社会全般で再生のイメージ、ならびにそのための課題や行動目標を共有することが必要です。

情報共有という視点に立つと、埋立地などの広がる沿岸部の水際線周辺の生態系や生物相については実はあまりよく知られていません。しかし、行政や市民による調査研究活動は進展し多くの情報が生まれつつあります。そこで、東京湾の環境や生態系に関する情報を、東京湾の再生に向けた活動のリテラシーとして、研究者ばかりでなく、市民や行政で共有することを目的に行っている東京湾海洋環境シンポジウムでは、今回、東京湾の水辺でのこれらの生物調査に着目し、その成果を総覧し、課題の発掘を行います。

日時：2018年2月12日（月・振休）13:00～17:00

会場：東邦大学習志野キャンパス・理学部5号館1階5104教室

共催：東京湾海洋環境研究会、東邦大学理学部東京湾生態系研究センター

後援：東京大学海洋アライアンス、東京湾再生官民連携フォーラム、東京湾をよくするため行動する会

プログラム（案）

13:00-13:05 趣旨説明 野村英明（東京大学海洋アライアンス、東京湾海洋環境研究会事務局長）

13:05-13:50 三番瀬の長期的な環境変化（平成28年度三番瀬総合解析結果より）

池田宗平、加藤 誠、伍井 稔、大坪二郎（いであ）、竹重貴志（千葉県自然保護課）

- 13:50-14:20 **東京湾東部における底質と底生生物との関係**
高伏 剛・小林 努・須原 敏（東京久栄）・大畑 聡（千葉県水産総合研究センター）・宇都康行・梶山 誠（千葉県水産総合研究センター 東京湾漁業研究所）
- 14:20-14:50 **市川市行徳鳥獣保護区での江戸前干潟研究学校調査報告**
-淡水,汽水,海水環境での水生生物定置網調査-
野長瀬 雅樹（行徳野鳥観察舎友の会）、風呂田利夫、中山聖子（東邦大学理学部東京湾生態系研究センター）、加納光樹（茨城大学広域水圏環境科学教育研究センター）
- 15:00-15:30 **横浜海の公園でのアサリ加入と潮干狩り資源量の長期変動**
風呂田 利夫（東邦大学理学部東京湾生態系研究センター）
- 15:30-16:00 **東京都の水生生物調査結果**
風間 真理（東京都環境局）
- 16:00-16:30 **多摩川河口干潟 SCOP100 調査の経緯と結果について**
鈴木 覚（NPO 法人・海辺つくり研究会）
- 16:30-17:00 **総合討論および閉会の挨拶**
風呂田利夫（東邦大学、東京湾海洋環境研究会会長）

◆観音崎 海藻観察会

3～4月には海藻が一番よく見られる時期です。観音崎の浜や磯で、ワカメ、ヒジキ、アカモク、マクサなど約30種類の海藻を観察しましょう。

日時：2018年3月18日（日）10:00～12:00 ※小雨決行

集合時間・場所：10:00 観音崎公園ボランティアステーション

定員：申し込み先着50名

対象：一般。小学生以下は保護者同伴

講師：観音崎自然博物館 館長 河野えり子

参加費：500円

持ち物：長靴、タオル、天候によっては雨具

★申し込み：電話にて参加者全員の氏名・年齢・住所・電話番号をお知らせください。保険加入のため3月14日までに申し込みください。

問い合わせ・申し込み先：観音崎自然博物館（神奈川県横須賀市鴨居4-1120）TEL 046-841-1533

【東海】

◆伊勢湾流域圏の再生シンポジウム Vol.3

2010年、名古屋で開催された生物多様性条約COP10において採択された「愛知目標」の達成期限まであと3年となりました。私たちは過去2回、愛知目標の達成を20項目の目標ごとにではなく、流域圏という広域的な視点から、また現場の眼を持つ市民の視点から考えようとシンポジウムを重ねてきました。

3回目となる今回は、この2つの視点を鍛えるために沖縄の現状に着目しました。沖縄では昨年9月「や

んばる国立公園」が誕生し、その先に来年の世界自然遺産登録が期待されています。選定基準は「生態系」と「生物多様性」と言われますが、一方で地域内の軍事基地は除外され、森を切り開いてのヘリパッド建設も進行しています。シンポジウムでは、焦点の一つ高江の自然を熟知するアキノ隊員の講演をうけ、この問題について考えたいと思います。 ※このイベントは地球環境基金の助成を受けて行っています。

日時：2018年2月10日（土）13:30～16:30

会場：カリオンビル 豊橋市民センター（愛知県豊橋市松葉町二丁目 63）

プログラム

基調講演「生物多様性と開発～生き物の視点から」

- ◆ アキノ隊員（宮城秋乃）日本鱗翅学会・日本蝶類学会会員

地域からの報告

- ◆ 田中美奈子「表浜まるごと博物館の取り組みと地域」
- ◆ 加藤正敏「三河湾の干潟・海岸の保全活動」
- ◆ 市野和夫「豊川水系の開発と環境」
- ◆ 桜ヶ丘高校生物部

参加費：資料代 500 円

主催：伊勢・三河湾流域ネットワーク、国連生物多様性の10年(UNDB)市民ネットワーク、設楽ダムの建設中止を求める会、中部の環境を考える会、四日市ウミガメ保存会、よみがえれ長良川実行委員会
問い合わせ：090-1284-1298（武藤）

◆2018年度海藻おしば協会・指導者養成講座「第1回勉強会」(実技・指導編)

日時：2018年4月14日（土）～15日（日）

場所：静岡県伊東市 大田区立伊豆高原学園 工作室

参加料：1人 6500円（配布資料・保検代含む）

宿泊料：基本的に相部屋とします。和室大部屋や洋室を用意していますが部屋の利用人数により宿泊代が変動します。ちなみに昨年度の和室大部屋ですと1泊1人当たり1500円前後、洋室で1人当たり3000円前後。遠方からの方には、前日の宿泊、15日の宿泊も受付ます。

その他の費用：施設使用料1泊につき1050円、入湯料150円、食事は朝食700円前後、昼食1000円前後、夕食2000円前後が掛ります。保検料、ライフジャケット借用料などは参加費に含まれています。

※車で来る方は、前もって申し出てください。駐車場を確保します。

※漂着海藻採集には参加者の車に分乗して出かけます。皆様の相乗りご協力をお願いします。

※海藻採集には濡れてもいいシューズ（長靴など）や、軍手、帽子、上に羽織るもの等ご用意ください。

※2018年度の会員更新手続きもこの会場で行います。

5. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その133)】

過去に遭遇した中で最大のシラヒゲウニ

2017年11月28日、和歌山県西牟婁郡白浜町に所在する瀬戸漁港の岸壁に、1個の特大個体のウニがいたので採集した。最初は種類がすぐにわからなかった。毎日同じような場所にいたので、不思議だが、ほとんど移動していない。そのすぐそばには普通サイズのシラヒゲウニもいた。

発見時、馴染みの漁師さんが、丁度、船を出して港の外へ行くところだったので、網でそのウニをすくってもらった。ずしりと重い！直ぐにこの特大個体の殻の大きさを計測し撮影もした。なんと！殻径が12cmで、殻高が7cmもあった。1個体のマガキの死貝殻を頂上部に身に着けて、ちょっとはカムフラージュしていた。磯でよくみかける場合はもっとたくさんの屑をまとっている。この特大ウニのことを漁師さんに尋ねると、彼らが「沖合で仕掛けた網にかかったものじゃない」とのことだった。



図 和歌山県白浜町産の特大のシラヒゲウニ

シラヒゲウニは我が国では房総半島以南に分布し、南方系のウニ類である。普通種なので筆者もあちこちで出会っている。しかし、本個体はこれまで沖縄から本州の各地および海外で筆者が実際に見てきたどの個体よりも大きかった。また、1980年代からの出版されている様々な図鑑をみると殻の直径が6.5~10cmと書いてあり、やはりどの記載よりも大きかった。数日間、流水で行動を見たが、よく動いていた。糞もたくさん出した。実体顕微鏡で糞を見てみたが、食物が何なのかよくわからなかった。

その後、採集してから数日後になるが、糞もこの特大個体もエタノールで固定した。逃がしてやれなくて可哀そうだが、永久標本として関心ある皆様にお見せしたい。

編集部より：久保田信先生がTBSの「世界ふしぎ発見」（第1463回 愉快的ハイエイジ 人生100年！？お楽しみはこれからだ！！）に出演されます。放送は2月3日（土）21:00~の予定です。

ウスリータイガ、ビキン川のほとりで(5)

針葉樹と広葉樹の混じる広大な原生林が広がるウスリータイガ（ウスリー川流域の森）は、その多様な生物相や温暖な気候から、最近“ロシアのアマゾン”として注目度が高まりつつあります。しかし、そのアクセスの困難さや言葉の問題などから、簡単には訪れることはできないとされています。そのアムールトラが棲む森に、私たち大阪のシニア自然大学校の正真正銘のシニア 19 名が訪問することができたのは、これまで 20 年以上にわたって現地の環境保全関係の皆さんとの協働を粘り強く進め、ウデへの皆さんからも高い信頼を得ている 3 つの団体とそれを支える中心メンバーの実績によるものです。一般財団法人地球・人間環境フォーラムのタイガフォーラム（野口栄一郎さん）、国際環境 NGO FoE(Friends of the Earth)Japan（佐々木勝教さん）、世界各地でのユニークなワイルド旅行を提供する旅行社ワイルドナビゲーション（宮田義明さん）の全面的なご協力によるものです。

手付かずの原生の森に感動した私たちを迎えてくれたのは、自然に負けずおとらず、感動的な温かい対応をしていただいた、工芸品作成者、芸術家（彫刻家）、作家、学校関係者、国立公園関係者とともに、身振り手振りでの会話でおもてなしいただいたホームステイ先の皆さんでした。村での 2 日目には学校訪問（保育園から高校 1 年まで）とそのあと中学生による「アカシカの舞い」とお母さん達の「縫い子の舞い」でのもてなしでした。それに対して、私たちの返礼は、ロシア民謡（灯火とカチューシャ）とウデへの人にも人気の高い恋のバカンスの合唱でした。いずれの歌もウデへの皆さんも一緒に口ずさむ合唱となりました。さらに、私たちの出し物、森のロッジに滞在中から練習を重ねた郡上踊りの春駒は、ウデへの生徒さんもすぐに覚え、皆で笑顔の踊りの輪ができました（写真 1）。



写真 1 世話役の西尾さんの先導による郡上踊り春駒に笑顔で参加するウデへの中学生(宮田義明さん撮影)

3日目には、ウデへの民族衣装をまとい、文化の香りを実感する機会に恵まれました（写真2）。その夕



写真2 ウデへの民族衣装をまとい文化の香りを味合うウスリー
タイガ観察会参加者の皆さん（宮田義明さん撮影）

方には、午後にウデへのお母さん達の指導で皆で作った餃子（中身はアカシカ肉と玉ねぎ）、秋に収穫されるゼンマイの炒め物、ジャガイモの炒め物、さらにはアカシカの冷凍心臓や肝臓など、心づくしのご馳走を囲んでの楽しい歓送迎会となりました。元村長のウザさんやホストファミリー、森の案内や釣りの指導をしていただいた猟師のセルゲーさんの参加を得て、村でのもてなしをアレンジしていただいた国立公園のナターシャさんの司会で懇親が進められました。宴会の後半は、次々と日本の演歌やロシアの歌の

交換で大いに盛り上がりました（写真3）。私たちを迎えていただいたウデへの皆さんの気持ちや感想を代表する言葉は、彫刻家のウラジミールさんの一言「あんた達日本人のようによく笑い、何にでも関心を持ち、よく話を聞いてくれる国民は他にはない」でした。

稲作漁撈文明とウデへの狩猟漁撈文明、マオリの自然観とウデへの自然観、日本古来の自然観とウデへの自然観に共通するのは、自然への畏敬の念に違いありません。ウデへの文化や自然の保全に、私たちに何ができるかを大きく問われる旅となりました。



写真3 歓送迎会で地理的距離を越えて心の距離をちぢめる歌の交換

離島にも砂浜消失は起こっている

2015年5月28日、いよいよ奄美大島へ出かける日が来た。関空から奄美大島の空港に無事到着。天候はあまり良くない。窓からの視界不良で、サンゴ礁もよく見えなかった。4・5年前にジュゴンの調査で奄美には2・3度やってきたが、それ以前にも奄美大島にやってきたことがある。大学生の時に、動物分類形態学の実習で奄美大島へ担当の鈴木正将助教授と同級生7人で来た。彼が研究していたメクラグモ（今ではこの言葉は差別用語として避けられているようだが、代わりに使われているのはザトウムシ。これは差別用語ではないのだろうか）の採集に、生徒達を実習と称して連れ出したのだ。当時は鹿児島から船で20時間ほどかかって名瀬の港へ着いた。最初に行ったところはハブ研究所。奄美大島ではどう猛なハブが生息しており、毎年何人かの犠牲者が出ていた。山や林に動物採集を試みる私たちは、まず一番にハブ研究所へ行き、そこで血清を手に入れ、使用方法を教わり、血清を背負って採集旅行へ出かけた。当時の私の服装は、登山服に作業用ズボン、登山靴、そして足元はゲートルを巻いた。そんな思い出深い奄美大島だった。この時の話には面白い話がたくさんあるのだが、本題とは関係ないので省略。

閑話休題。現在は奄美大島へは各地の空港から直行の飛行機が飛んでいる。奄美大島の北部のサンゴ礁を埋め立てて空港を作っている。空港には奄美会議代表の天津幸夫さん、原井一郎さんと義富弘さん、城村典文さんら奄美会議の重鎮達が総出で迎えに来てくれた。しばらくして環瀬戸の阿部悦子さんが福岡空港から到着。みんなでいっしょにまず空港から近い笠利町の用という海岸を見学に行く。原井さんの説明によると、奄美大島でも残っている3つの自然海岸の一つだという。たしかに素晴らしい砂浜がつづいている。



奄美大島でも少なくなった自然海岸の一つ、用海岸

昼食は用安海岸にある「ばしゃ山村」というレストランで摂る。このレストランは砂浜に面しており、砂浜と海を眺めなが

ら食事ができるので、人気の店である。しかし、この用安海岸は最近砂浜の砂が減少しており、レストランの経営者からも原因と対策を考えて欲しいと要請された。実は、奄美大島の各地の海岸で砂浜が減退しているという。海の生き物を守る会でも全国の砂浜問題に取り組んでおり、砂浜の生物調査を始めているところなので、この問題には関心があったが、奄美大島の砂浜問題が、このあとわれわれの関わる問題になるとは

その時には想像もしなかった。私は明後日に行うシンポジウムのことが第一に心配で、あまり他のことは考
える余裕がなかったのだった。

昼食後、空港へ帰り、安部真理子さんを迎え、名瀬市内へ向けて出発する。奄美空港は中心地の名瀬市内
から遠く、車で1時間ほどかかる。われわれは名瀬市内を乗り越して大浜海岸へと向かう。ここはウミガメ
の産卵が見られる奄美大島でもっとも優れた砂浜海岸で、国定公園でもあり、海水浴場でもあるが、最近浜



の砂が無くなってビーチ
ロックが露出してしまい
海水浴としての使用は困
難になっている。ウミガ
メもほとんど産卵に来な
くなったという。わずか
に浜の南の方で一部産卵
が見られるらしい。ここ
は海岸に道路を作りその
道路のために護岸が作ら
れ、駐車場もできており、
国定公園とはいえ、自然
海岸ではない。国定公園
の自然をこんなに壊し
て、砂が無くなったと言
うのも、当たり前のような
気がしたが。とにかく

砂が無くなってしまっってビーチロックがむき出しになった大浜海岸。国定公園。

大きく砂浜がえぐられ、駐車場へ上る階段が壊されて宙に浮いている。砂が無くなれば波の作用が強くなる。
奄美大島のような離島にも砂浜の消失が頻繁に起こっていることに驚いた。奄美会議の人たちの話では、沖
合の海砂採取が大きい原因ではないかと疑っているという。さもありなん。

名瀬市内に戻って夕食は野菜を中心とした島料理を楽しむ。島唄と三線の音を聞けば、大島に来たと実感
が湧いてくる。(つづく)

8. 事務局便り

- 「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は、事務局までご連絡ください。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし、写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。

- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ご一緒に講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。
- 本会に寄付をお寄せください。口座は会費と同じです。送金内容について事務局までご一報ください
- うみひるもの表紙を飾る海の生き物の写真を募集しています。種名同定済みですと、大変助かります。海にお出かけの際にはカメラご持参で。ベストショットが撮れたら、ぜひ編集部までお送りください。

9. 編集後記

今号も、久保田先生、田中先生、向井先生の玉稿エッセイがそろい、大変読み応えのある「うみひるも」となりました。メール添付でお送りするため、ページ数を減らしファイル容量を抑える都合から、字が少し小さめで申し訳ございません。PDF は伸縮自在ですから、ぜひ読みやすい文字サイズに拡大表示していただき、じっくりお読みください。ウデへの皆さんとの貴重な交流シーンをはじめ、写真も素晴らしいものばかりです。

話は変わりますが、先日、BBNJ(国家管轄権外区域の海洋生物多様性)に関するシンポジウムに行ってきました。公海や深海など、誰のものでもない海域の生き物をどう保全するか、という国際的な問題がテーマです。そこに登壇した海洋研究開発機構研究担当理事の白山義久先生(環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い海域」の抽出にご一緒に携わるなど、向井先生ともご縁の深い先生)が、海では今でも続々と新種が見つかる、海にすむ動物の種数をつかむには、少なくとも、あと200年以上かかる、という話をされていました。そして、1980-90年代に新しい動物門として海で発見された「有輪動物」や「胴甲動物」、さらに2000年に入ってから見つかった「微顎綱」という新しい分類グループの動物の写真を示されました。海には「有爪動物門」を除く、全ての動物門がすんでいるそうです。改めて海の豊かさとし生き物の不思議さに驚き、彼らの家に油やプラスチックやその他もろもろを垂れ流すヒトの罪深さに凹みました。(ちよ)

今年の冬は世界的に見ても寒いらしい。ロシアではマイナス65℃を記録したという。地球温暖化なんてウソじゃないかと思う人がいても不思議じゃないが、南半球では異常な高温で死者もでてきているという。地球温暖化というよりは、気候変動、異常気象という方が正しい言い方のようだが、原因を考えれば温暖化でも良いのかもしれない。一時的な変動や異常ではなく、この傾向は続くと思える。異常気象の幅が徐々に大きくなり、人々の生活に大きな影響が出てきているし、これからはもっとその影響が熾烈になってくるのではないか。次の世代が無事生涯を全うできるという確証も無くなっている。われわれの世代が子孫に残すものは何か。最近、ダイヤモンドという人の書いた「文明崩壊」という本を読んだ。マヤ文明、イースター島などいろんな民族や国が滅んだ原因を考察した本であるが、どの例も、環境破壊が最終的に文明の崩壊を招いたという。今ではそれが1国の崩壊ではすまない時代になっている。地球の文明の崩壊が迫っているのではないか。そして、その主な原因が環境破壊であることに気づかない人が多いのではないか。亡びた文明の多くの人が、なぜ自分たちは亡びようとしているか、知らないままに環境を破壊し続けたのだろう。彼によるとイースター島文明は、巨石文明を進めるために島のすべての木を切り倒してしまったのだという。最後の木を切った人は、その結果を知っただろうか。私たちはその最後の一人になりつつある。日頃の生き方をもう一度真剣に考え直す必要があるのではないだろうか。(宏)



会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。年会費は個人 2,000 円、団体 20,000 円。匿名による参加も可能。会員は、各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行い、そのための助成金申請をすることができます。入会希望の方は、事務局まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第 213 号

2018 年 2 月 1 日発行

発行「海の生き物を守る会」代表 向井 宏

編集：瀬戸内 千代

〒606-8413 京都市左京区浄土寺下馬場町 69 番地

TEL&FAX:075-741-6281 メールアドレス：hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp

ホームページ URL：<http://e-amco.com/>

ゆうちょ銀行（金融機関コード 9900）四四八店（448）普通 4982452

記号番号「14400-49824521」 海の生き物を守る会